

概 要

- OECD Education2030による取組の一つである。
- 生徒と教師が、異なる視点を持ち寄り、対等な立場で対話を行う。
- 「Well-beingあふれる学校」に向けての国際共創を行う。
- 未来の「カリキュラム開発」と「新しい評価」の実証研究を行う。

主 催

OECD Education 2030

場 所

パリ OECDブローニュ・ビヤンクール事務所

内 容

令和6年12月9日（月）～11日（水）の3日間

- 1日目 開会式

OECD教育スキル局シュライヒャー局長の挨拶 等

- 2日目 MVPエキスポ

※「MVP」は、Minimum Viable Products（最小の利用可能で有効な産物）の略

「学校のウェルビーイング」をテーマに生徒がこれまでの活動を発表

- 3日目 ディスカッション

生徒と教師が「未来のカリキュラム」について、マルチステークホルダーによる対話

※事前グループ活動 令和6年6月～ 24のグループのうちの1つに参加



OECD生徒・教師サミットinパリ（伊勢崎高校）

参加目的

- **直接交流の価値**：対面ならではの深い議論や信頼関係を築く
- **異文化体験**：現地での生活や文化に触れ、理解を深める
- **主体性の向上**：現場での発表や議論を通じ、実践力を養う
- **地域への還元**：経験を報告し、国際的視点を地域に広める
- **将来の人材育成**：国際経験を活かし、次世代の育成に貢献

参加者

- 群馬県立伊勢崎高等学校（SAH指定校） 生徒8名 教諭2名
（「スコットランド・日本」チームとして参加）
- その他
 - 世界から16か国、対面約280名、オンライン約200名が参加
 - 日本から12校、約60名の生徒・教師が対面参加



OECD生徒・教師サミットinパリ（事前グループ活動）

グループ編成

伊勢崎高校、フレイザーバラアカデミー（スコットランド）、高崎市立並榎中学校

テーマ設定

- 学校の「ウェルビーイング」を高めるためのMVPを考案
- テーマ「学校と地域（Community）」を軸に、次の3つの視点でMVPを検討
 - 学校と環境（Environment）
 - 学校と安全性（Safety）
 - 学校と教育（Education）
- ミーティングを重ねてMVPをブラッシュアップ

活動内容

- 3校合同のオンラインによる意見交換
- 「Padlet（共同作業ができるデジタル掲示板ツール）」による情報共有
- 各校で作成したMVPをまとめ、グループとしてのMVPサイトを作成



OECD生徒・教師サミットinパリ（D a y 1）

アイスブレイク



大会開催セレモニー



各学校の紹介



ワークショップ

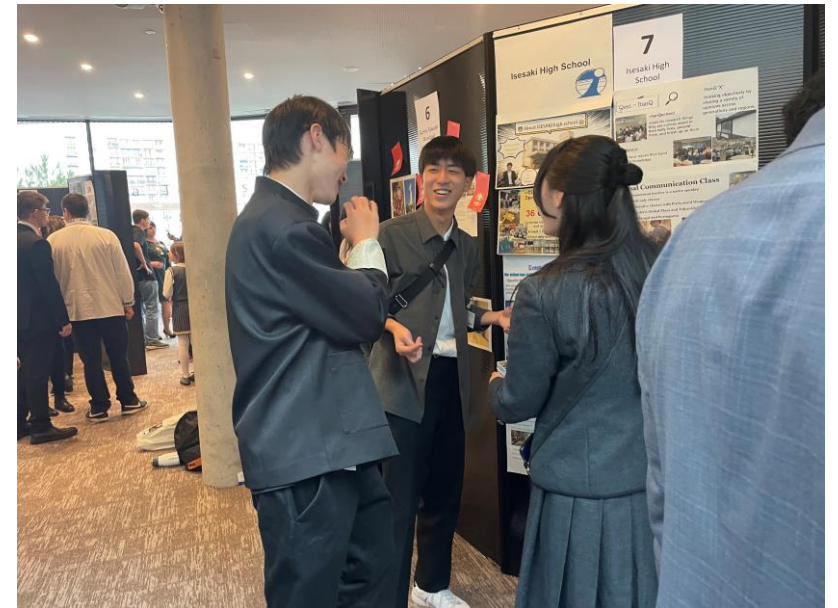
教師ミーティング

生徒の様子

- 自己紹介はできたが、日本文化や観光地の紹介では**積極的に発言できず、聞き手に回ることが多かった。**

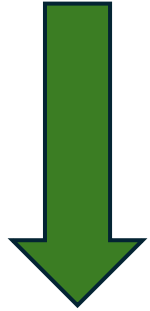
生徒の様子

- 午前中の**反省を生かし、積極的に話しかけ、異文化を理解使用とする姿が見られた。**伊勢崎高校の紹介では、**他の参加者からの質問にもしっかりと対応していた。**



OECD生徒・教師サミットinパリ（Day 2）

MVPの紹介



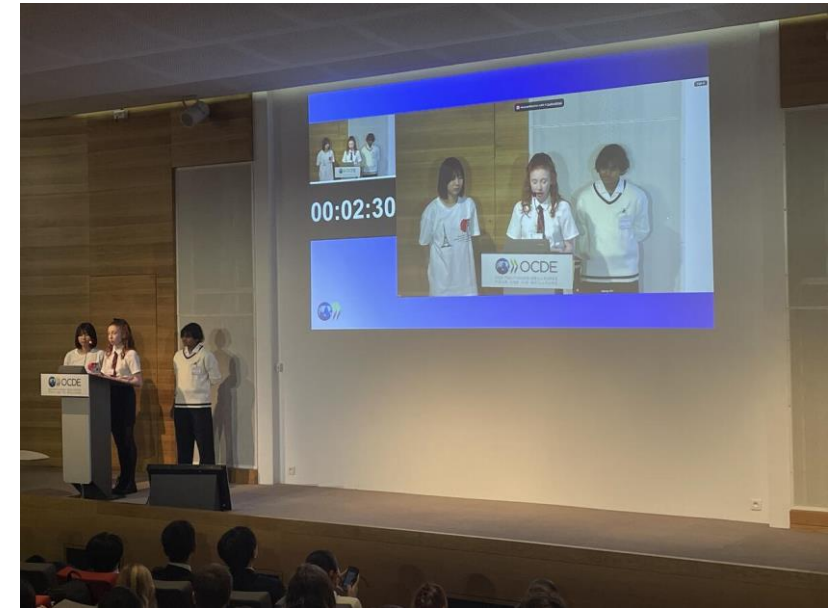
MVPの発表

生徒の様子

- 伊勢崎高校の生徒1名が1分間担当し、伊勢崎高校の取り組みを英語で発表し、内容を**しっかりと会場内に伝えることができた。**

生徒の様子

- MVP発表を3校で分担し、伊勢崎高校の持ち時間5分をさらに3チームに分け、それぞれのMVPを発表。説明と質疑応答を行った。
- 自分たちが考えたMVPを**他の学校の生徒と協力しながらしっかりと伝えることができた。**しかし、思い通りの発表ができなかったと感じ、終了後に涙を流す生徒もいた。



OECD生徒・教師サミットinパリ（Day 2）MVP

OECD Project Infinity MVP

ホーム

namie

Fraserburgh

Untitled page

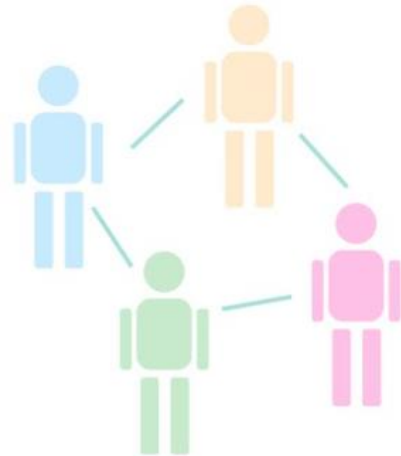
沿革

チーム

よくある質問

Goal

Connecting with people, the region, and politics



interact with people

人と交流する

This creates an opportunity to interact with people while having fun like a game



politics

政治

Learn about political events in your area



hazard map

ハザードマップ

To make a hazard map that is written in detail



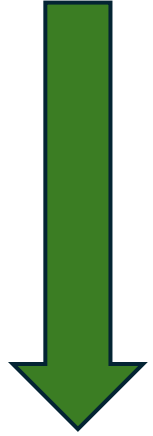
グローバル学習環境
プラットフォーム

global learning environment platform

Enable students across the globe to learn freely and bridge the gap in educational opportunities

OECD生徒・教師サミットinパリ（Day 3）

ディスカッション



リフレクション

生徒の様子

- 難しいテーマだったが、生徒は「総合的な探究の時間」について説明し、**地域と関わりながら研究を進めていることを英語で紹介した。**
- また、教師の役割について、広い枠組みで支えつつ軌道修正する重要性を述べた。



生徒の様子

- **伊勢崎高校の生徒が、グループの代表として登壇し、自分のグループで話し合ったことをおよそ1分程度で発表した。**



パリ生徒教師サミット報告（参加生徒）

事前
(様子)

スコットランドとのオンラインミーティングでは、**自分から進んで発言することに躊躇する姿が見受けられた**。「誰かがやってくれるだろう」という気持ちや「まずは様子を見てから」というような姿勢の生徒が多く見られた。



当日
(感想)

Day 1

最初の自己紹介だったり、日本の祝日について紹介するときはなかなか**思うように発言できなかつたり英語でいうのが不安で自信を持って言えなかつた**けど、学校紹介の時間やMVPの準備の時間では**自分から話しかけたり質問したり意見を出したり**できた。



Day 2

英語でフレイザーバラと発表の仕方について話したかったけど**上手く理解できなかつたり伝えたりできなかつた**。でも理解しようと思って聞くと伝えたいことが**何となくでもより理解できると**思った。



Day 3

グループワークで話し合う時に会話の速度が速くて**少し理解出来てもすぐに分からなくなつてついていけなかつたし、自分の意見も言えなかつた**。でも、音楽の話とか自分の好きなこととかを違う国の子達と話せたり、**日本の音楽について言えたり**できた。



事後
(感想)

自分が考えた学校をよりよくする方法を紹介しました。みんな自分の意見を自分の言葉で伝えようとみんな頑張っていました。そして、それを**周りが受け入れて、否定を一切しない**ところにいることに**温かさを感じた**。**このような環境がもっと広がれば良い**と思った。（湯けむりフォーラムより）

パリ生徒教師サミット報告（参加教員）

事前
(様子)

時差の影響を受けつつも主体的にMVPの作成に取り組んでいた。異文化交流を通じて、互いに意見を交わしながら、**着実に成長している様子が見受けられた**。事前学習ではチーム一丸となり、当日の発表に向けてさらに協力し、**成果を出すことに意気込みを感じた**。

生徒の
様子

Day 1

「正しく話さねば」と考えすぎて発言をためらう場面が多かった。しかし、午後には積極的に話しかけ、日本のお菓子を配るなど工夫する姿が見られた。

Day 2

前日の反省を活かし、休憩時間にも積極的に会話する姿があった。MVP発表では英語が伝わり共感を得たが、機材トラブルや準備不足に悔しさも残った。**それでも生徒は最善を尽くし、貴重な経験を得た**。

Day 3

未来のカリキュラムという難題に苦戦したが、臆せず発言する生徒もいた。また、**人の意見を聞いて学ぼうとする姿勢も見られ、それぞれが自ら考え行動に移していた**。

事後
(感想)

- ・ 会議当日、自己紹介やポスター発表で最初は消極的だった生徒が、徐々に積極的に話しかけたり、質疑応答を行ったりする姿を見て、**生徒の成長を長期的な視点で見守ることの重要性を感じた**。
- ・ 国際会議で議論された「ウェルビーイング」や「カリキュラムの未来像」といったテーマは、**日本の教育現場においても重要な課題である**。これらを授業や学校運営に取り入れることで、よりグローバルな視点を持った教育を推進する必要があると感じた。

OECD生徒・教師サミットinパリ（事後活動及び成果等）

事後活動

- ① 生徒・教師サミット振り返り（12月18日）
- ② 教育長表敬訪問（12月19日）
- ③ 生徒・教師サミットの報告書作成
- ④ MVP 逆輸入ワークショップ 参加（1月28日）
 - ・ 生徒・教師サミットにて発表した MVPとそのプロセスについて、日本国内向けに発表を行った。



成果等

- ・ 主体性と実践力の向上
 - 発表や議論を通じて、自らの意見を発信し、主体的に行動する力や実践的なスキルを養うことができた。
- ・ 異文化理解と国際的視野の広がり
 - 現地での生活や文化に触れ、対面での対話を通じて異文化理解を深め、国際的な視野を広めることができた。
- ・ 経験の共有と学校教育への還元
 - 国際経験で得た知見を学校や地域と共有するとともに、今後の教育の在り方やより豊かな学校への意識を高めることができた。